

指導資料

特に夏期の長期野営は 年間訓練の柱上でもある。その為の準備、計画からこの訓練は始まっている。充分諸君は心得ているが 猶参考の為 再記した。

班に対して

○ 彼等スカウト自身のことを、自分達でやり遂けるため、全責任を負はすこと。

○ スカウトを信頼し、自治能力を認め、班長に対し根気よく助力をあたえること。されば指導者である君自身にも大変な努力であり、君自身との戦いである。一寸ずつで出来ぬがらと、その仕事を横取りするよりではスカウトは育ない。

○ 自分の権力を他に分つことを叶まないで、ボス様に振舞い、自

分の得意なものを見せびらかす様ではスカウトの品性陶冶を旨無しにするリーダである。この様な人はスカウティング以外の団体に行けばよい。

○ B-Pは最良の決果を得るためには、手放しの責任を負はすこと、もし一部の責任のみでは その成果もまた一部的なものとなるだらう……と言っている。班長に一切を引受けさせ、班員と共に彼等の問題を考えさせ、動き通すことで 干渉は少く そもそもスカウトの求めには 純切に答へねじてやらねばならぬ。

失敗は避けられぬ。 然し温く迎てやることである。心得ておらねばならぬ。

態度化 のてくて

スカウトの訓育は実践を通して訓育されることは万々承知のことでしょう 観念ではスカウティングは出来ません

この指導の留意点について下記の5ヶを心して下さい。観念を打破る5ヶの鍵と申しましよう。

○ (主体化) それは 君自身で考へたのか。それとも誰かに教はつたのが。

○ (一般化) それは外の場合にもあてはまるのか。

○ (眞実化) それは真にそう思ひのか。

○ (実践化) それは本當にやれるのか。

○ (現実化) 今まで そんな時、どうしたか。(過去の経験にてりして)

そのことを今どり思ひか
(批判)
これからどうするか。
(実践意欲)

以上に対し 自己防衛 の形で表現される技巧について下記のものがあげられる

- 現実忘却 幻想 征服者への同一化
- 現実歪曲 合理化 (へりくつ) 投射 (なすりつけ)
- 現実襟償 けりづけ。悪口。誇示。
- 現実逃避 退行(子供っぽくなる) ヒステリー 依頼、嘘言。
- 現実攻撃 反抗、亂暴、非行。これ等に対する指導は自分の考へやり方で考えさせる。
- ◇ 値値の高低に多数決で決まらない。
- ◇ 結論の多数性と 値値の序列をa 色々の解決法を見たりながら
b その中で自分のやれるやり方で
c 今までより一歩高いものを選び
d 本気でやらうと決意すること

- ◇ しゃべっているが考えていない。
やりもせなければ やらうとも思つていなことをしゃべる。

特にこのことは 例えばノックの美德を教えるために 多くの惡徳(虚偽と偽瞞と見深)を植えつけるとい

り恐るべく落し穴であることに気づかねばならない。

静かな雰囲気で 静なスカウトとしての決意に導きり。

批判 評価による自己還元の歴史
即ち 自分が自分に約束する決意。
自分が自分と語る世界。

この対決こそスカウトに取つて最も大切なことである。

スカウティングは一面子供の発達に即応し 地方には発展的訓育過程であり、物質的、精神的な基本的欲求を充足させ低次な形態より高次の精神と技術の習得により、自由競争と優劣の原理に対し判然と後別される凡ての人间の幸福の追求と集団の中での相互援助の新しいモラルに基づけられ 子供の意識の底にひそむ個人主義的利己主義的思考の様式や行動を排

除して創造的、喜びの生活へ発展させて行く過程でなくてはならない。それは子供の意識の形成にかつている。

低次な・愉快、楽、兴味、等の原則のみに基いて集会訓練を行つてゐると全く許せない享樂主義の習慣を身につける大きな誤りを犯させる。

訓育と陶冶の統一は指導の原則である。子供の思考や感情は、科学的な知識、社会や実生活の正しい認識と結び付いて初めて肯定的な情動となる。これがスカウトの行動の根本動因となるのである。

知識は 自ら向ひ学ぶもので、そこには身につき 生て働く。このことは人格構成の要素であり 子供達の心を搖り動すものであり 感動まで高

めるものである。

理論と実践の中こそ人格が決定される 内面的に 思想 感情 判断、外面的行状これを取扱うのが実践スカウト教育である。即ち実践(訓育)を通して人格形成過程における行為、行動の側面を重視している 即ち規律行動を基本的課題としていることを忘れてはならぬ。

生活の態度(心)

生活の原理(身)

物を見る目(智)-現代的知識度

↓
(観察)
1 客体の場合
2 主体の場合(教)

こゝに困難な問題も生起してくるが この訓育過程に於て指導者が 自分の人格の総ての力を以て そのスカウティング実現の為 あらゆる前程をつくり出す時 値値ある訓育手段として効果を表してくる。

その前程(プログラム)が 架空なものであると後でわかる様なものではなくて実現出来るもの 楽しいもの、であるこの確信をあたえるものであり 兴味からより高い価値の方へ方向付し 成功する様導かれねばならない。

キャンプでは最良の時である その意味で班の野営法を充分活用されたい。

次に心しておらねばならないことに、スマートネス 即ち端正といふことでこのことは 2つのポイントより切まる スカウティングと指導者の目的である。吾々はスカウトユニホームを着用し子供達の指導にあたつているのであるから 指導者は端正でなければならぬ。そして運動に決められた規律に従はねばならぬ。

ユニホームを着用し端正を見せると共に前後の規律を示さねばならない。このことは勿論、内面的な(精神)ものと外面的なものと両立せねばならない。外面的な服装を非常に大切に実践するのもその趣である。スカウティングの精神を受け継ぎ、スカウティングの哲学的精神を守ることは次代の子供が大きくなるにつれて、その根本精神は益々大切である。それが子供達に如何に大切であるか、又将来、どれだけ役立つか、今更言ひきまでもない。

言葉はテクニックではない。人間性、精神が宿つて価値がある。スカウティングの基本動作「カビング」の集解散儀式はスマートである可もので、規律を身につけると共に、スカウト精神育成の場である「スカウトとしての基礎の育成」にある。個人の動作、集団の動作とその精神と、個別の動作は人の行動の依り處である。このことは又指導者自体の基本的要素を養うことである。

再言すれば、その訓育のねらいはスカウト個人、指導者自体の規律を養うことである。従つて基礎的訓育としての規律が精神面に於て、自発活動となり行動面に於て動作、言葉、態度、服装、礼儀、時間厳守として表れ、個人の生活の秩序となり、それが集団と結びついて譲りあひ、助け合ひの個人の自己の立場に織り、秩序を守る事の大重要なを身につければならない。スカウティングは規律をよく守る事が生まれてくるのである事に留意すべきである。